

早島町



学校教育ビジョン

地域とつながり 未来を拓く 早島っ子の育成

本町は、「喜んで登校・満足して下校、行きたい・行かせたい学校園」をめざし、15歳の春を見据えた持続可能な教育の実現に向けて、学校園・地域・行政が一体となった取り組みを進めています。平成25年10月30日に策定された「早島町学校教育ビジョン」のもと、平成27年6月に「教育のまち・早島」宣言を行い、一貫教育の更なる充実と本ビジョンの具現化を推進していきます。

「地域とつながる」 早島っ子

01

早島町のことをよく知り、

早島町の歴史と現状、自然・社会・産業の特徴、すばらしさと課題などについてよく学び、理解する子どもを育てます。

02

早島町の発展のために協力・協働でき、

早島町の持続可能な発展のために、様々な地域住民と、様々な世代と協力・協働できる子どもを育てます。

03

早島町のことを愛し続けることができる子どものことです。

早島町の学校を卒業しても、早島町から転出しても、早島町のことを思い、誇りをもち、早島町の発展を願う子どもを育てます。

「未来を拓く」 早島っ子

04

「確かな学力」を身につけ、自主的・協働的に課題を解決できる力と、

基礎的・基本的な知識・技能を身につけるだけでなく、それらを活用・応用することで、自主的・共同的に課題に取り組み、解決する力を育みます。

05

高い志をもち、世界でも活躍できる力を身につけた子どものことです。

我が国の、そして世界の平和的な発展のために活躍できる力を育みます。具体的には、世界を視野に入れた将来への夢や希望・志、国際理解、外国語コミュニケーション力などです。

地域とつながり 未来を拓く 早島っ子の育成

本町は、「喜んで登校・満足して下校、行きたい・行かせたい学校園」をめざし、15歳の春を見据えた持続可能な教育の実現に向けて、学校園・地域・行政が一体となった取り組みを進めています。平成25年10月30日に策定された「早島町学校教育ビジョン」のもと、平成27年6月に「教育のまち・早島」宣言を行い、一貫教育の更なる充実と本ビジョンの具現化を推進していきます。

育みたい資質・能力

01

自立

自立した一人の人間としてたくましく生きる

02

共生

自他共に尊重し、主体的に社会や自然と関わる

03

郷土早島を愛する心

郷土早島を大切に思い、世界に視野を広げ、
よりよい社会づくりに参画する

重点項目

重点
01

町民とともに学び、地域を考える **はやしま学** ※1を実施します。

重点
02

各学校・園と地域が連携して
早島っ子を育てる仕組みを拡充します。

重点
03

**保・幼・小・中の連携を強化し、
小・中一貫教育を推進**します。

※1 「**はやしま学**」とは、学校と地域で、町民と共に早島町の歴史を学び、未来を考えていく取組です。この取組を学校教育だけでなく、社会教育においても実施していくことで、地域を愛し、地域の発展を願う子どもの育成に取り組みます。

地域とつながり 未来を拓く 早島っ子の育成

重点項目

重点
01

町民とともに学び、地域を考える **はやしま学** ※1 を実施します。

重点
02

各学校・園と地域が連携して **早島っ子を育てる仕組みを拡充** します。

重点
03

保・幼・小・中の連携を強化 し、**小・中一貫教育を推進** します。

町民とともに学び、地域を考える **はやしま学** を実施します。

はやしま学の理念 私は この町で あなたとともに 学び育ちます

生涯にわたって早島町について学ぶことができる機会を保障することで、早島町について学び続け、早島町を愛し続ける町民を育てます。また、地域とのつながりを大切にし、広い視野と高い志をもち、未来に向かってはばたく子どもたちの育成を目指します。

学校教育におけるはやしま学

社会教育におけるはやしま学

町民とともに学び、地域を考える **はやしま学** を実施します。

はやしま学の理念 私は この町で あなたとともに 学び育ちます

生涯にわたって早島町について学ぶことができる機会を保障することで、早島町について学び続け、早島町を愛し続ける町民を育てます。また、地域とのつながりを大切にし、広い視野と高い志をもち、未来に向かってはばたく子どもたちの育成を目指します。

学校教育におけるはやしま学

地域とつながるプロジェクト(地域理解)

早島の「これまで」と「これから」を考えます。「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を作るという目標をもち、学びの質を向上していくために

- 学校教育と生涯学習の融合のもと、保幼小中の15年間でつきたい力を明確にした一貫教育を推進します。
- SDGsの視点やキャリア教育の視点を踏まえ、生活科や総合的な学習の時間等を中心にしたESDの教育活動の再構築を図ります。
- 「ボランティア・パスポート」や「キャリア・パスポート」の活用を通して、地域に誇りをもち、社会貢献できる児童生徒を育成します。

未来を拓くプロジェクト(国際理解)

世界で活躍できる知と力と志を育てます。相手意識に立った国際人としての心の教育・共に生きる力を培うために

- 小・中学校の英語教育では、英語をツールに自分の考えや思いを伝えあう教育環境を創ります。学んだことを用いて、間違いを恐れず積極的に自分の考えを英語で発信するコミュニケーション能力の育成を図ります。
- 英語検定3級以上の取得に向けて、同一級1回の受験料を無料とする応援制度を設けています。中学3年生までに全生徒が3級以上を取得できるようめざします。
- 「子ども議会」「はやしま子どもフォーラム」「早島英語暗唱コンテスト」等を活用し、社会に開かれた学びの場づくりを行います。

社会教育におけるはやしま学

町民とともに学び、地域を考える **はやしま学** を実施します。

はやしま学の理念 私は この町で あなたとともに 学び育ちます

生涯にわたって早島町について学ぶことができる機会を保障することで、早島町について学び続け、早島町を愛し続ける町民を育てます。また、地域とのつながりを大切にし、広い視野と高い志をもち、未来に向かってはばたく子どもたちの育成を目指します。

学校教育におけるはやしま学

地域とつながるプロジェクト(地域理解)

早島の「これまで」と「これから」を考えます。「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を作るという目標をもち、学びの質を向上していくために

- 学校教育と生涯学習の融合のもと、保幼小中の15年間でつきたい力を明確にした一貫教育を推進します。
- SDGsの視点やキャリア教育の視点を踏まえ、生活科や総合的な学習の時間等を中心にしたESDの教育活動の再構築を図ります。
- 「ボランティア・パスポート」や「キャリア・パスポート」の活用を通して、地域に誇りをもち、社会貢献できる児童生徒を育成します。

未来を拓くプロジェクト(国際理解)

世界で活躍できる知と力と志を育てます。相手意識に立った国際人としての心の教育・共に生きる力を培うために

- 小・中学校の英語教育では、英語をツールに自分の考えや思いを伝えあう教育環境を創ります。学んだことを用いて、間違いを恐れず積極的に自分の考えを英語で発信するコミュニケーション能力の育成を図ります。
- 英語検定3級以上の取得に向けて、同一級1回の受験料を無料とする応援制度を設けています。中学3年生までに全生徒が3級以上を取得できるようめざします。
- 「子ども議会」「はやしま子どもフォーラム」「早島英語暗唱コンテスト」等を活用し、社会に開かれた学びの場づくりを行います。

社会教育におけるはやしま学

大人の学び場

生涯に渡って早島町について学ぶことのできる機会を保障することで、早島町を愛し、誇りに思う地域住民を育てます。「まなびの舎講座」は、大人はやしま塾として、町民が学び合い、早島への愛着を深め、持続可能な町づくりをめざす生涯学習の場として、ふるさとESD、歴史、健康の3つの視点で約30講座開講しています。講座を受講することで、コーディネーターになるための単位が取得できます。15単位以上で「修了書」、30単位以上で「はやしま学応援サポーター認定証」、100単位以上で「講師認定証」が授与されます。土日には、子どもとの「合同まなびの舎講座」も開催しています。

子どもの学び場

土日や放課後、夏休み等を利用して、算数体感教室やデコ巻き体験、科学サイピアツアー、ピザづくりなどを実施する「わくわくサマー」や土曜や放課後に行われるはやしま塾、大学生とのわくわく算数教室など、様々な活動に取り組んでいます。

町民とともに学び、地域を考える **はやしま学** を実施します。

はやしま学の理念 私は この町で あなたとともに 学び育ちます

生涯にわたって早島町について学ぶことができる機会を保障することで、早島町について学び続け、早島町を愛し続ける町民を育てます。また、地域とのつながりを大切にし、広い視野と高い志をもち、未来に向かってはばたく子どもたちの育成を目指します。

学校教育におけるはやしま学

地域とつながるプロジェクト(地域理解)

早島の「これまで」と「これから」を考えます。「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を作るという目標をもち、学びの質を向上していくために

- 学校教育と生涯学習の融合のもと、保幼小中の15年間でつきたい力を明確にした一貫教育を推進します。
- SDGsの視点やキャリア教育の視点を踏まえ、生活科や総合的な学習の時間等を中心にしたESDの教育活動の再構築を図ります。
- 「ボランティア・パスポート」や「キャリア・パスポート」の活用を通して、地域に誇りをもち、社会貢献できる児童生徒を育成します。



さくら祭り



地域フィールドワーク



総合的な学習の時間(中2) はやしまの日



中1だっぴ



あいさつ運動

町民とともに学び、地域を考える **はやしま学** を実施します。

はやしま学の理念 私は この町で あなたとともに 学び育ちます

生涯にわたって早島町について学ぶことができる機会を保障することで、早島町について学び続け、早島町を愛し続ける町民を育てます。また、地域とのつながりを大切にし、広い視野と高い志をもち、未来に向かってはばたく子どもたちの育成を目指します。

学校教育におけるはやしま学



子ども議会



英語教育(幼稚園)



Hayashima English Recitation Contest(英語暗唱大会)

未来を拓くプロジェクト(国際理解)

世界で活躍できる知と力と志を育てます。相手意識に立った国際人としての心の教育・共に生きる力を培うために

- 小・中学校の英語教育では、英語をツールに自分の考えや思いを伝えあう教育環境を創ります。学んだことを用いて、間違いを恐れず積極的に自分の考えを英語で発信するコミュニケーション能力の育成を図ります。
- 英語検定3級以上の取得に向けて、同一級1回の受検料を無料とする応援制度を設けています。中学3年生までに全生徒が3級以上を取得できるようめざします。
- 「子ども議会」「はやしま子どもフォーラム」「早島英語暗唱コンテスト」等を活用し、社会に開かれた学びの場づくりを行います。



はやしま子どもフォーラム



オンラインEnglish(小5)

町民とともに学び、地域を考える **はやしま学** を実施します。

はやしま学の理念 私は この町で あなたとともに 学び育ちます

生涯にわたって早島町について学ぶことができる機会を保障することで、早島町について学び続け、早島町を愛し続ける町民を育てます。また、地域とのつながりを大切にし、広い視野と高い志をもち、未来に向かってはばたく子どもたちの育成を目指します。



ふるさとESD講座



健康講座(栄養教室)

社会教育におけるはやしま学

大人の学び場

生涯に渡って早島町について学ぶことのできる機会を保障することで、早島町を愛し、誇りに思う地域住民を育てます。「まなびの舎講座」は、大人はやしま塾として、町民が学び合い、早島への愛着を深め、持続可能な町づくりをめざす生涯学習の場として、ふるさとESD、歴史、健康の3つの視点で約30講座開講しています。講座を受講することで、コーディネーターになるための単位が取得できます。15単位以上で「修了書」、30単位以上で「はやしま学応援サポーター認定証」、100単位以上で「講師認定証」が授与されます。土日には、子どもとの「合同まなびの舎講座」も開催しています。



健康講座(健康ウォーキング)



歴史講座



健康講座(健康教室)

町民とともに学び、地域を考える **はやしま学** を実施します。

はやしま学の理念 私は この町で あなたとともに 学び育ちます

生涯にわたって早島町について学ぶことができる機会を保障することで、早島町について学び続け、早島町を愛し続ける町民を育てます。また、地域とのつながりを大切にし、広い視野と高い志をもち、未来に向かってはばたく子どもたちの育成を目指します。



留学生クイズ&トーク



わくわくサマー(三菱自動車)

社会教育におけるはやしま学



わくわくサマー(宇宙実験教室)



土曜英会話塾



わくわくサマー(お魚探検隊)



わくわくサマー(絵を見て物語)

子どもの学び場

土日や放課後、夏休み等を利用して、算数体感教室やデコ巻き体験、科学サイピアツアー、ピザづくりなどを実施する「わくわくサマー」や土曜や放課後に行われるはやしま塾、大学生とのわくわく算数教室など、様々な活動に取り組んでいます。



ロゲイニング



算数体感教室

地域とつながり 未来を拓く 早島っ子の育成

重点項目

重点
01

町民とともに学び、地域を考える **はやしま学** ※₁ を実施します。

重点
02

各学校・園と地域が連携して **早島っ子を育てる仕組みを拡充** します。

重点
03

保・幼・小・中の連携を強化 し、**小・中一貫教育を推進** します。

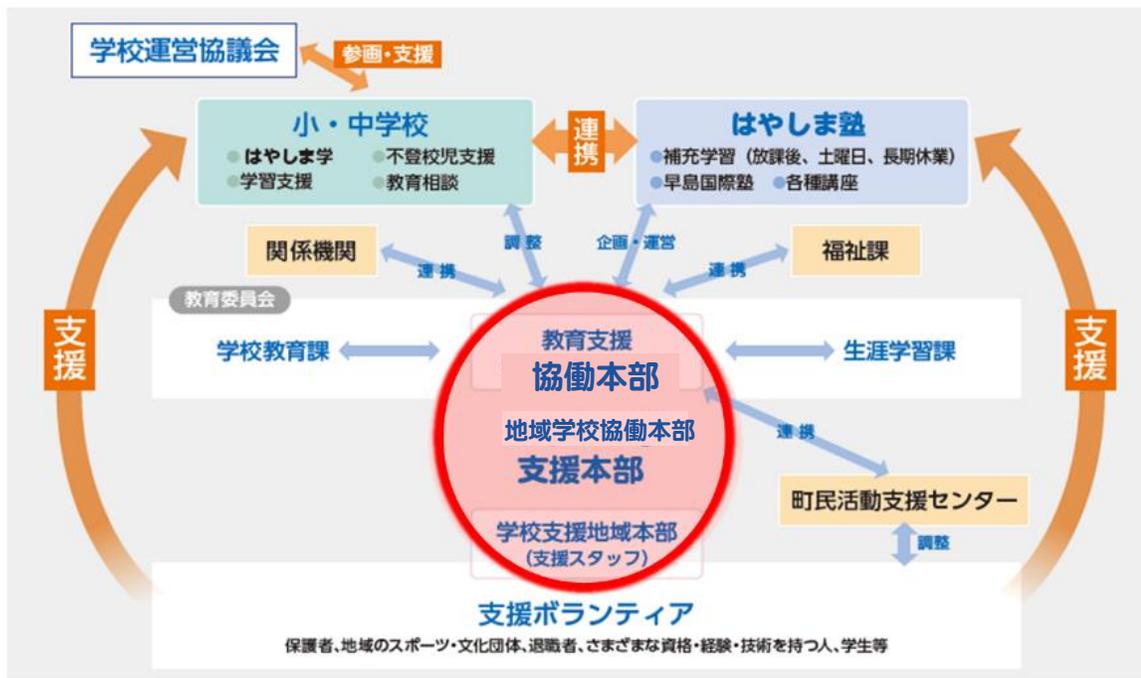
重点
02

各学校・園と地域が連携して早島っ子を育てる仕組みを拡充します。

はやしま学協働本部の充実を図り、協働活動推進員を中心に、高校生・大学生・地域の方などのボランティアシステムを構築し、学校園の授業等に積極的に入っていただくとともに、地域での「はやしま塾」や「まなびの舎講座」などにも参加していただき、地域総ぐるみの教育を目指します。

地域学校協働本部の充実を図ります

小・中学校の学校運営協議会を一体的に組織し、学校の運営や教育活動の計画・実施・評価を協同的に行います。



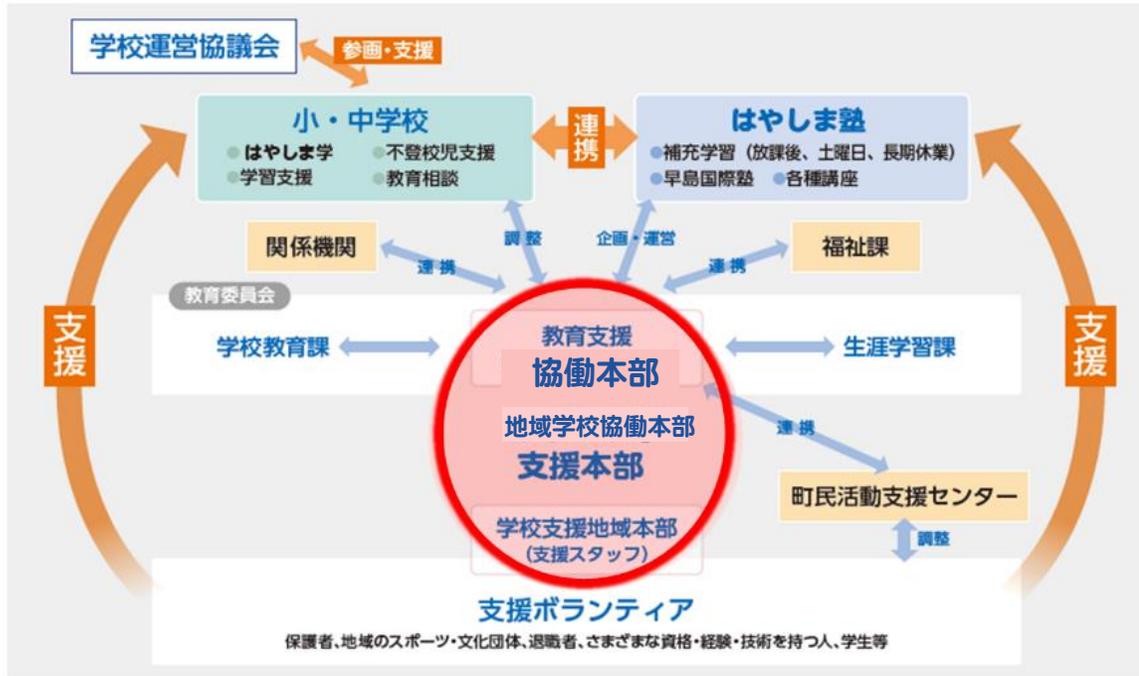
重点
02

各学校・園と地域が連携して早島っ子を育てる仕組みを拡充します。

はやしま学協働本部の充実を図り、協働活動推進員を中心に、高校生・大学生・地域の方などのボランティアシステムを構築し、学校園の授業等に積極的に入っていただくとともに、地域での「はやしま塾」や「まなびの舎講座」などにも参加していただき、地域総ぐるみの教育を目指します。

地域学校協働本部の充実を図ります

小・中学校の学校運営協議会を一体的に組織し、学校の運営や教育活動の計画・実施・評価を協同的に行います。



サポートボランティアの体制づくりに努めます

子どもの健やかな成長を支えるため、高校生・大学生や地域ボランティアを随時募集しています。学習支援や読み聞かせなど、興味・関心のある方はぜひご連絡ください。

はやしま学協働本部

幼稚園・小学校・中学校の授業、放課後・土曜日の学習支援など、ご協力をいただける大学生や元教員の方、地域の方を募集しています。興味・関心のある方は、ぜひ担当までご連絡ください。

ボランティア
未経験者歓迎!

お気軽にお問い合わせください!

早島っ子サポートボランティア 募集中!



- こんな方に最適です!
- 学習サポートをしたい!
- 部活動などのサポートをしたい!
- 絵本の読み聞かせをしたい!
- 環境美化や施設整備をしたい!
- 図書館の本の整理をしたい!

【問い合わせ】
早島町教育委員会 学校教育課 (担当 野田)
☎ 086-483-2211
E-mail: hayashimagaku@town.hayashima.lg.jp

地域とつながり 未来を拓く 早島っ子の育成

重点項目

重点
01

町民とともに学び、地域を考える **はやしま学** ※1 を実施します。

重点
02

各学校・園と地域が連携して **早島っ子を育てる仕組みを拡充** します。

重点
03

保・幼・小・中の連携を強化 し、**小・中一貫教育を推進** します。

社会構造と変化と子どもたちを取り巻く環境の変化

これまでと時代や産業構造が大きく異なり、
求められる力、思考・発想も変わっています

工業社会から情報社会を経て、今はあらゆる場所でデジタル技術が活用され、社会や生活の形を変えるDXの世界に入っています。これからのSociety5.0時代は、一人ひとりが当事者意識を持ち、他者と協働しながら新たな価値創造を生み出すことが求められ、多様性、異なる発想を力にするのがビジネスの常識となりつつあります。

これまで

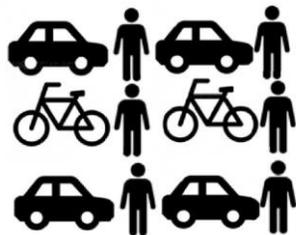
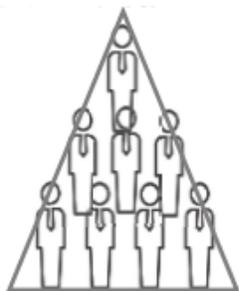
工業化社会

大量生産・大量消費

縦割り

自前主義

新卒一括採用・年功序列



ピラミッド組織の人の力で

沢山作って沢山売る

- 「みんなと同じことができる」「言われたことをできる」上質で均質な労働者の育成が必要
- 正解(知識)の暗記の比重が高い「正解主義」
- 身内のコミュニケーション、人間関係を大切に 業界内での競争(業界〇位)

思考
発想

社会構造と変化と子どもたちを取り巻く環境の変化

これまでと時代や産業構造が大きく異なり、
求められる力、思考・発想も変わっています

工業社会から情報社会を経て、今はあらゆる場所でデジタル技術が活用され、社会や生活の形を変えるDXの世界に入っています。これからのSociety5.0時代は、一人ひとりが当事者意識を持ち、他者と協働しながら新たな価値創造を生み出すことが求められ、多様性、異なる発想を力にするのがビジネスの常識となりつつあります。

これまで

工業化社会

大量生産・大量消費

縦割り

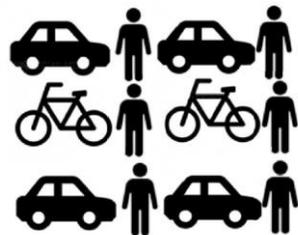
自前主義

新卒一括採用・年功序列



ピラミッド組織の人の力で

沢山作って沢山売る



今・これから

DX時代 Society5.0

新たな価値創造

レイヤー構造

分野・業界を超えた連携

人材の流動化

観光

マルチモーダルサービス
(公共交通機関一括決済)

自動運転

医療・福祉

EV車充電サービス

配車サービス

超小型モビリティ

カーサービス

保険

小売り

シェアサイクル

駐車場予約アプリ

当事者意識をもって

自らゴール設定を

- 「みんなと同じことができる」「言われたことをできる」上質で均質な労働者の育成が必要
- 正解(知識)の暗記の比重が高い「正解主義」
- 身内のコミュニケーション、人間関係を大切に 業界内での競争(業界〇位)

思考
発想

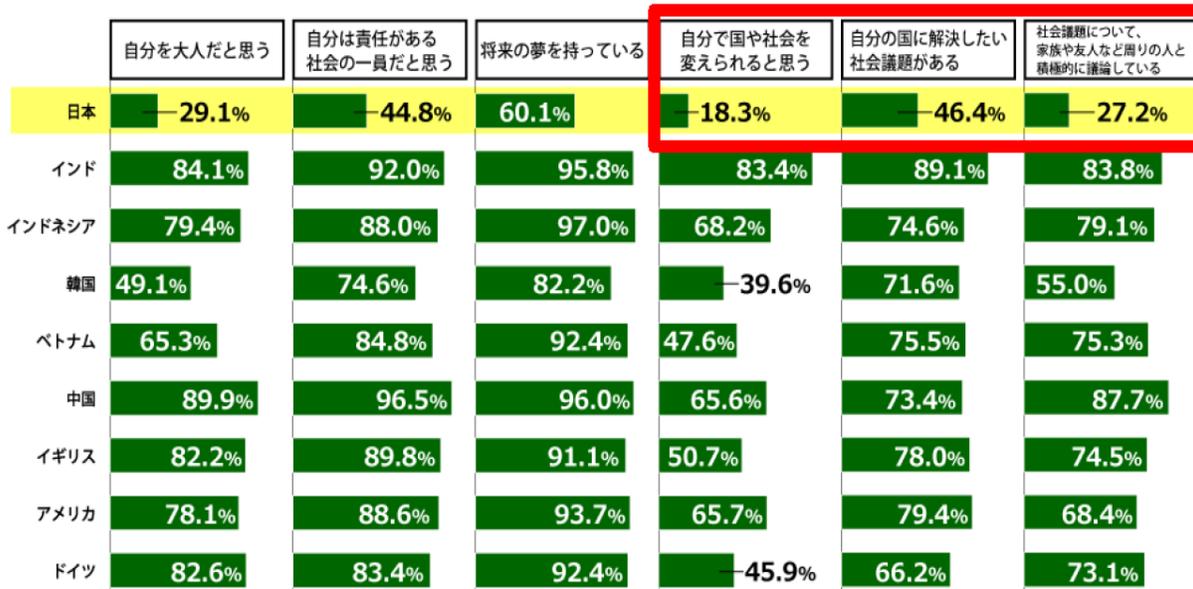
- 正解がない「新たな価値創造、イノベーション創出」
- 自分で課題を見つけ、解決する力
- 分野や業界を超えた「よそ者」と一緒に 分野を超えた競合が当たり前

社会構造と変化と子どもたちを取り巻く環境の変化

これまでと時代や産業構造が大きく異なり、
求められる力、思考・発想も変わっています

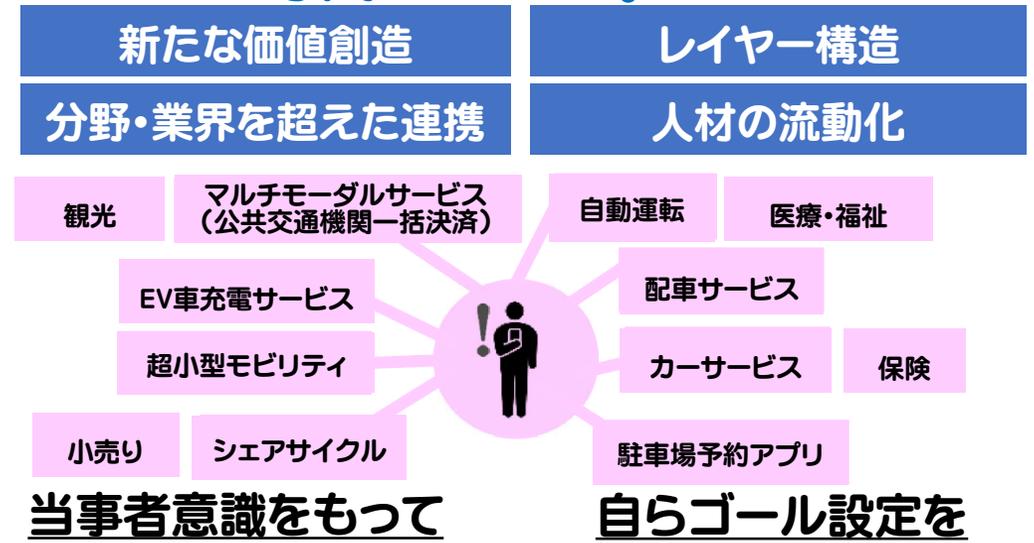
工業社会から情報社会を経て、今はあらゆる場所でデジタル技術が活用され、社会や生活の形を変えるDXの世界に入っています。これからのSociety5.0時代は、一人ひとりが当事者意識を持ち、他者と協働しながら新たな価値創造を生み出すことが求められ、多様性、異なる発想を力にするのがビジネスの常識となりつつあります。

現状



今・これから

DX時代 Society5.0



自分の国に解決したい社会課題があると答えたのはわずか46.4%であり、「その課題について議論している」の数值はさらに低く、当事者意識が十分に育っていないと言われている。子どもたち自身が、課題を見つけ、他者と協働し、議論していく「PBL」の取組が求められる。

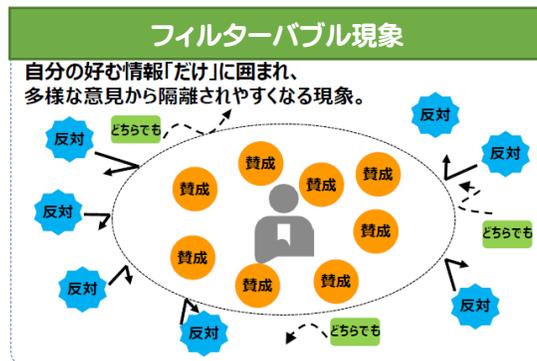
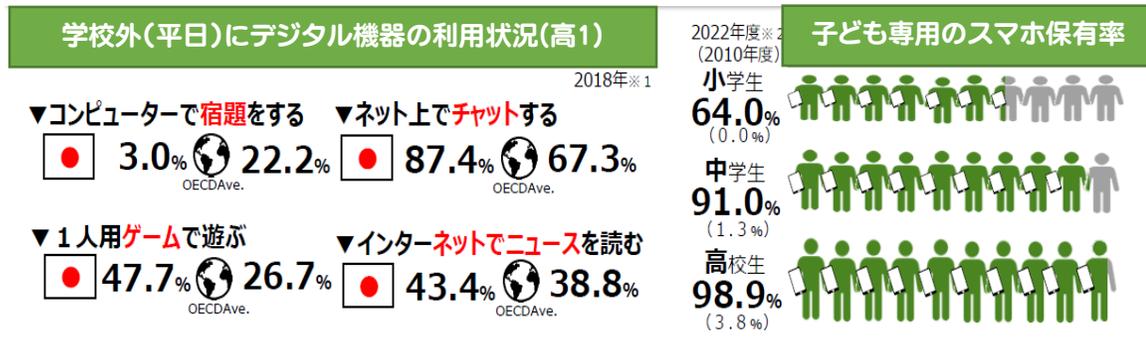
思考
発想

- 正解がない「新たな価値創造、イノベーション創出」
- 自分で課題を見つけ、解決する力
- 分野や業界を超えた「よそ者」と一緒に 分野を超えた競合が当たり前

デジタル社会における子どもたちを取り巻く環境の変化

子どもたちのデジタル・シティズンシップを 育成することは喫緊の課題となっている

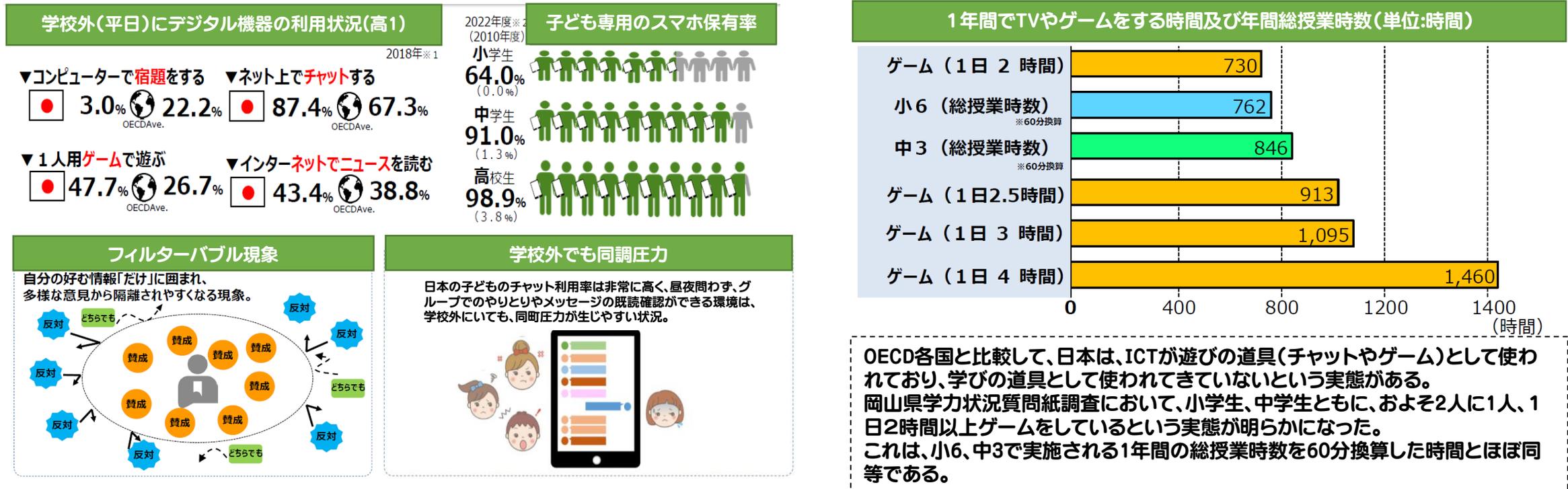
日本の子どもの学校外でのICT活用状況は、多様な用途で利用しているものの、チャット、ゲームの利用に偏る傾向があります。現在のスマホ保有率は、小学生は64%、中学生が91%と非常に高く、大人が想像する以上に子どもにかかる「同調圧力」の影響は非常に大きく、ICTを学びの道具にし、賢い付き合い方を教える指導が必要です。



デジタル社会における子どもたちを取り巻く環境の変化

子どもたちのデジタル・シティズンシップを 育成することは喫緊の課題となっている

日本の子どもの学校外でのICT活用状況は、多様な用途で利用しているものの、チャット、ゲームの利用に偏る傾向があります。現在のスマホ保有率は、小学生は64%、中学生が91%と非常に高く、大人が想像する以上に子どもにかかる「同調圧力」の影響は非常に大きく、ICTを学びの道具にし、賢い付き合い方を教える指導が必要です。



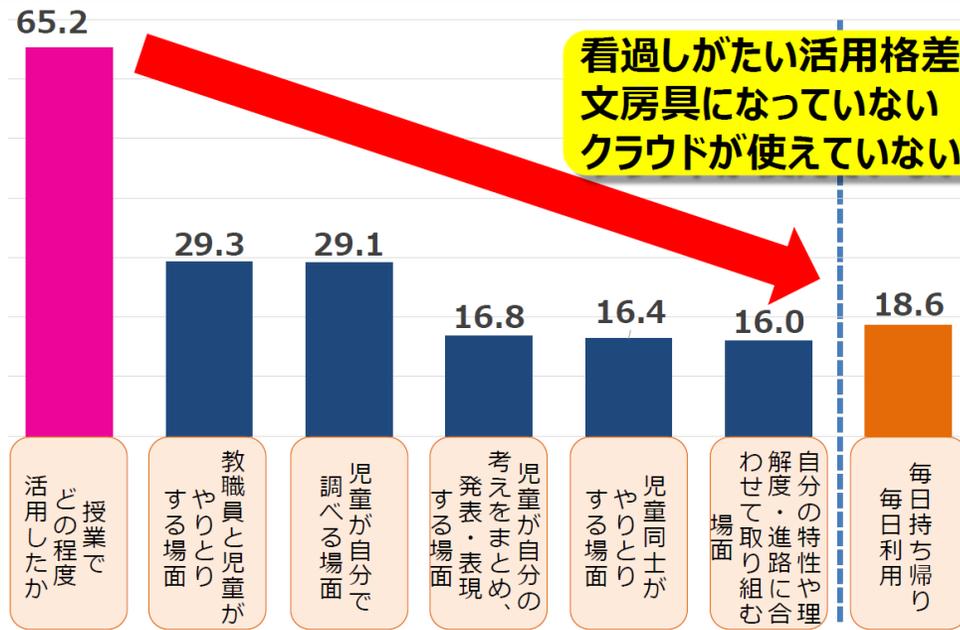
OECD各国と比較して、日本は、ICTが遊びの道具(チャットやゲーム)として使われており、学びの道具として使われてきていないという実態がある。岡山県学力状況質問紙調査において、小学生、中学生ともに、およそ2人に1人、1日2時間以上ゲームをしているという実態が明らかになった。これは、小6、中3で実施される1年間の総授業時数を60分換算した時間とほぼ同等である。

デジタル社会における子どもたちを取り巻く環境の変化

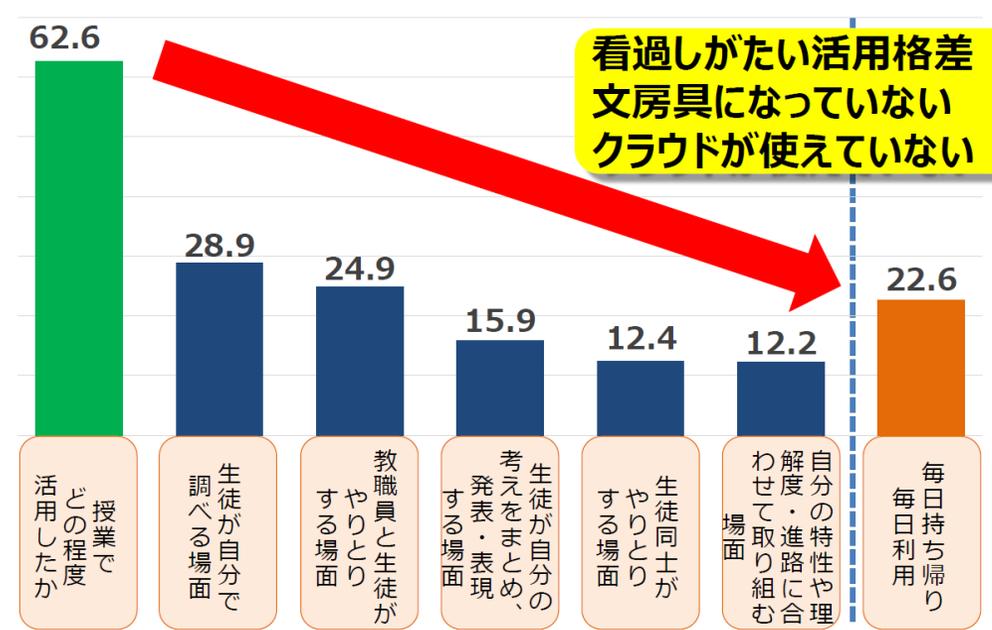
子どもたちのデジタル・シティズンシップを 育成することは喫緊の課題となっている

日本の子どもの学校外でのICT活用状況は、多様な用途で利用しているものの、チャット、ゲームの利用に偏る傾向があります。現在のスマホ保有率は、小学生は64%、中学生が91%と非常に高く、大人が想像する以上に子どもにかかる「同調圧力」の影響は非常に大きく、ICTを学びの道具にし、賢い付き合い方を教える指導が必要不可欠です。

端末活用:ほぼ毎日と回答した小学校の割合(全国平均)



端末活用:ほぼ毎日と回答した中学校の割合(全国平均)



ICTの活用は進みつつあるが、クラウドを活用できているかどうかについては課題がある。教職員や児童生徒同士がやりとりする場面や個別最適化された学びに向けて、クラウドを活用した学びにつながっておらず、端末が十分に活用できていない実態が明らかとなっている。

変化の激しい時代 × 人生100年時代

働く期間が長くなる

マルチステージの時代へ

技術や知識が激しく変化する時代において、その変化を上回るスピードで人に投資し続けないと、知識が陳腐化し、人的資本の水準が維持できないと言われていています。また、健康寿命が世界一の長寿社会において、人生100年時代が到来しています。このような中、従来の「教育・勤労・引退」の3ステージ制から、マルチステージ制へと移行する時代となり、キャリアアップ、転職、は当たり前で、その度に新たな適応、学習していくことが求められ、自ら学ぶ経験・習慣が大切となってきています。

これまで

3ステージ制(教育・勤労・引退)



変化の激しい時代 × 人生100年時代

働く期間が長くなる

マルチステージの時代へ

技術や知識が激しく変化する時代において、その変化を上回るスピードで人に投資し続けないと、知識が陳腐化し、人的資本の水準が維持できないと言われています。また、健康寿命が世界一の長寿社会において、人生100年時代が到来しています。このような中、従来の「教育・勤労・引退」の3ステージ制から、マルチステージ制へと移行する時代となり、キャリアアップ、転職、は当たり前で、その度に新たな適応、学習していくことが求められ、自ら学ぶ経験・習慣が大切となってきています。

これまで

今・これから

3ステージ制(教育・勤労・引退)

22歳 30歳 65歳 80歳



マルチステージ制(仕事から教育への再移行)

22歳 30歳 65歳 80歳



自分の生き方に関して考える時
知識やスキルの再取得
(職業訓練・学び直しなど)

組織に雇われず、独立した立
場で生産的な活動に携わる人
(フリーランスなど)

異なる活動を同時並行で行う
(例)週3仕事、週1ボラン
ティア、週1NPO活動など

これから学校に求められることは、知識の獲得を目指し「何を学ぶか」ということから脱却し、「どのように学ぶか」というように、「学び方を学ぶ」場所へと学校が変わっていくことは必須の時代となってきている。

変化の激しい時代 × 人生100年時代

働く期間が長くなる

マルチステージの時代へ

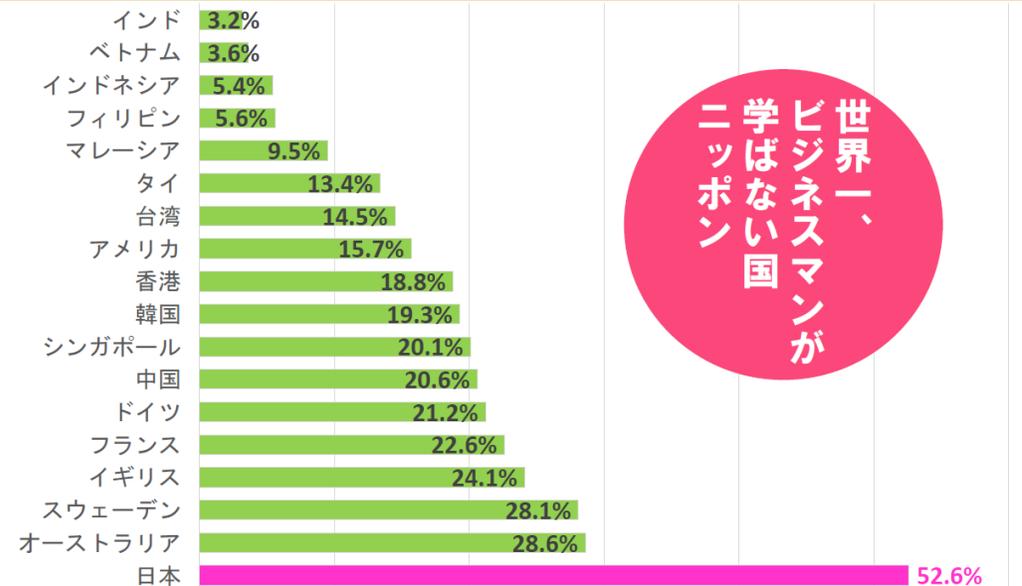
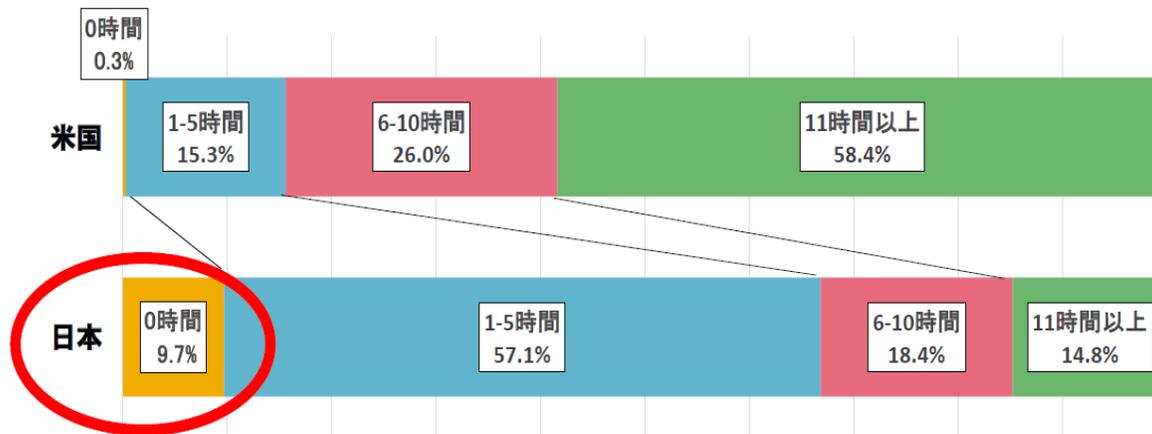
技術や知識が激しく変化する時代において、その変化を上回るスピードで人に投資し続けないと、知識が陳腐化し、人的資本の水準が維持できないと言われていています。また、健康寿命が世界一の長寿社会において、人生100年時代が到来しています。このような中、従来の「教育・勤労・引退」の3ステージ制から、マルチステージ制へと移行する時代となり、キャリアアップ、転職、は当たり前で、その度に新たな適応、学習していくことが求められ、自ら学ぶ経験・習慣が大切となってきています。

現状

現状

授業以外の学習時間(大学生)

自己研鑽「とくに行っていない」(ビジネスマン)



世界一、
ビジネスマンが
学ばない国
ニッポン

残念ながら、大学生がアメリカと比べて勉強していないことや、ビジネスマンが世界一学ばない国という実態となっており、将来に渡って学び続ける資質や能力や態度や習慣が十分に身につけていない。

変化の激しい時代 × 人生100年時代

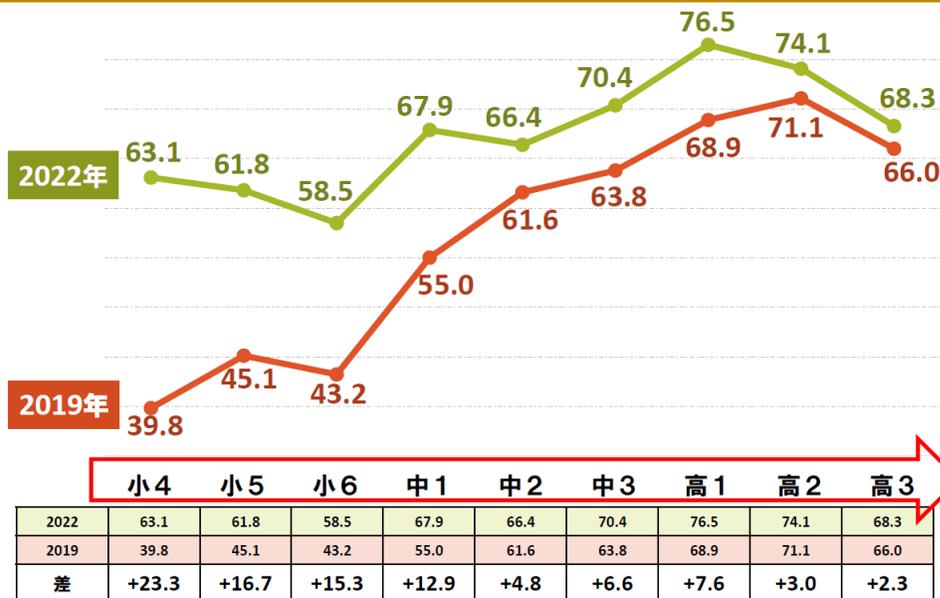
働く期間が長くなる

マルチステージの時代へ

技術や知識が激しく変化する時代において、その変化を上回るスピードで人に投資し続けないと、知識が陳腐化し、人的資本の水準が維持できないと言われています。また、健康寿命が世界一の長寿社会において、人生100年時代が到来しています。このような中、従来の「教育・勤労・引退」の3ステージ制から、マルチステージ制へと移行する時代となり、キャリアアップ、転職、は当たり前で、その度に新たな適応、学習していくことが求められ、自ら学ぶ経験・習慣が大切となってきています。

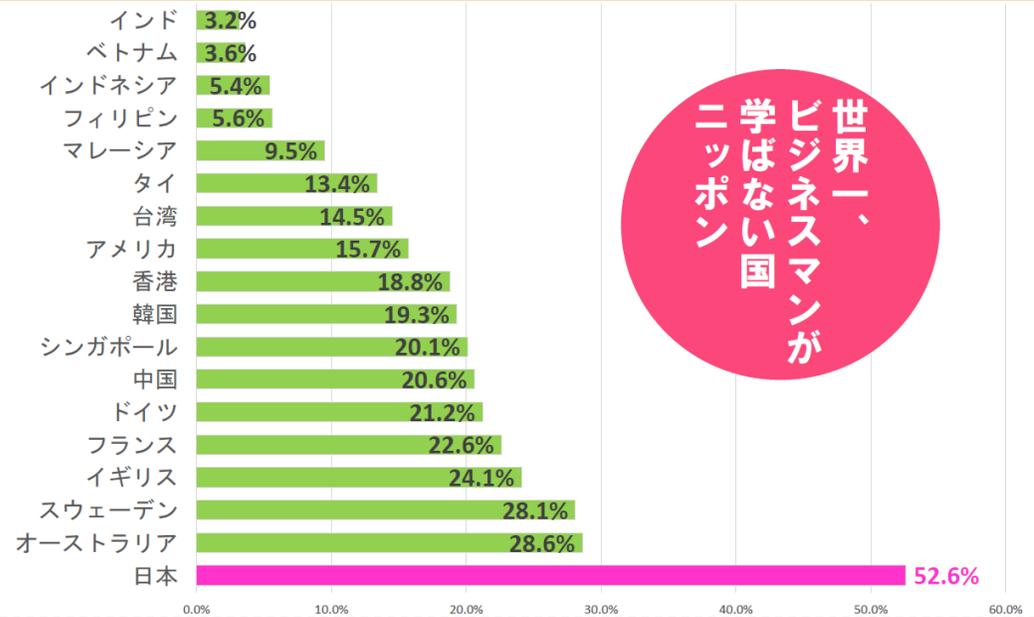
現状

「上手な勉強のしかたがわからない」と回答した児童生徒の割合(全国平均)



現状

自己研鑽「とくに行っていない」(ビジネスマン)



世界一、
ビジネスマンが
学ばない国
ニッポン

「上手な勉強のしかたが分からない」と答えた子どもたちは、学年が上がるほど増加、全学年で3年前より増加しており、学び方や自分に合った学び方が身につけていない可能性がある。

「同じペースで 同じことを 同じ方法で」の教育で 「誰一人取り残さない」は可能か

下の図は、今の教室の様子です。発達格差があったり、学習の理解度に個人差があったり、抱えている悩みも子どもによって様々です。一人ひとりみんな違う多様な子どもが集う教室で、旧来型の紙や黒板を使った一方的な一斉授業をしていくことには限界があり、「それぞれのペースで 対話を通じて 自分の学びを発見」していく多様性を重視した教育・人材育成が求められています。

発達障害の可能性のある子ども

(学習面or行動面で著しい困難を示す)

- ADHD(注意欠如多動性障害)
いろいろなものに気が散り、授業に集中できない
- LD(学習障害、読字障害)
文字がスムーズに読めなかったり、板書に時間がかかったりして、授業の進度に合わせられない。
- ASD(自閉症スペクトラム)
学習活動の見通しが持てないと不安になる。暗黙のルールが分からず、突然発言してしまう。

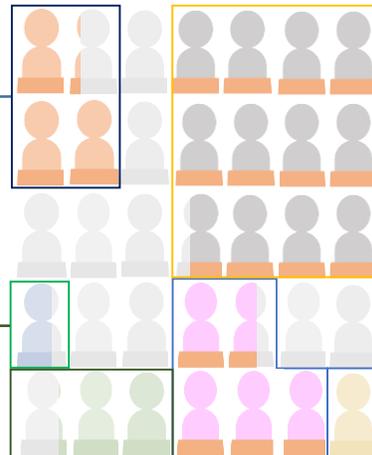
特異な才能のある子ども

授業が暇で苦痛。価値観や感じ方の共感も得られなくて孤独。発言すると授業の雰囲気壊してしまう。

発達障害
3.6人
(10.4%)

特異な才能のある子供
0.8人
(2.3%)

小学校35人学級の場合



家にある本が少ない子供
11.5人
(32.9%)

家で日本語をあまり話さない子供
1.0人
(2.9%)

ヤングケアラー ※1
2.3人
(6.5%)

不登校
0.6人
(1.7%)

不登校傾向
4.1人
(11.8%)

家庭の文化資本の違い

家にある本冊数が少なく、学力の低い傾向がみられる子ども。
※家にある本の冊数と正答率の間には相関有
家に本が10冊又は25冊と答えた割合



日本語を話す頻度の違い

家で日本語を「いつも話している」子どもと「全く話さない」子どもの間には、正答率に差が見られる。
※家で日本語を「全く話さない」「ときどき話す」と答えた割合

※例示している特性が複合しているケースも多い。
※特性として示している子どもについても、状況にはグラデーションがあり、様々であること
※この他にも、学校には、病気療養で学校に通えない子ども等、多様な背景や困難を抱えている子どもが存在している

(出典) 内閣府 総合科学技術・イノベーション会議「Society5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ」を一部改変して資料作成
文部科学省初等中等教育局学校デジタル化プロジェクトチームリーダー・修学支援・教材課長 武藤 久慶 講演資料より一部改変して作成
ヤングケアラーと家族を支えるプログラムの資料を参考にして作成

「同じペースで 同じことを 同じ方法で」の教育で 「誰一人取り残さない」は可能か

下の図は、今の教室の様子です。発達格差があったり、学習の理解度に個人差があったり、抱えている悩みも子どもによって様々です。一人ひとりみんな違う多様な子どもが集う教室で、旧来型の紙や黒板を使った一方的な一斉授業をしていくことには限界があり、「それぞれのペースで 対話を通じて 自分の学びを発見」していく多様性を重視した教育・人材育成が求められています。

発達障害の可能性のある子ども

(学習面or行動面で著しい困難を示す)

- ADHD(注意欠如多動性障害)
いろいろなものに気が散り、授業に集中できない
- LD(学習障害、読字障害)
文字がスムーズに読めなかったり、板書に時間がかかったりして、授業の進度に合わせられない。
- ASD(自閉症スペクトラム)
学習活動の見通しが持てないと不安になる。暗黙のルールが分からず、突然発言してしまう。

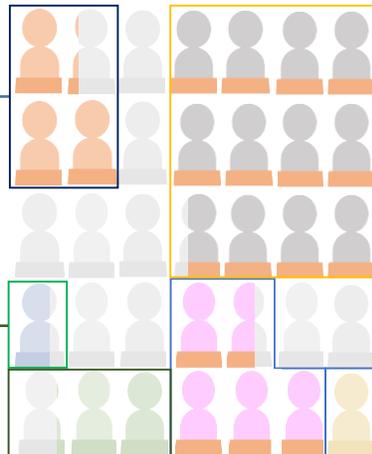
特異な才能のある子ども

授業が暇で苦痛。価値観や感じ方の共感も得られなくて孤独。発言すると授業の雰囲気壊してしまう。

発達障害

2.2人
(5.6%)

中学校40人学級の場合



特異な才能のある子供

0.9人
(2.3%)

ヤングケアラー※1

2.3人
(5.7%)

家にある本が少ない子供

13.9人
(34.8%)

家庭の文化資本の違い

家にある本冊数が少なく、学力の低い傾向がみられる子ども。

※家にある本の冊数と正答率の間には相関有
家に本が10冊又は25冊と答えた割合



家で日本語をあまり話さない子供

1.3人
(3.2%)

日本語を話す頻度の違い

家で日本語を「いつも話している」子どもと「全く話さない」子どもの間には、正答率に差が見られる。
※家で日本語を「全く話さない」「ときどき話す」と答えた割合

不登校

2.4人
(6.0%)

不登校傾向

4.1人
(10.2%)

※例示している特性が複合しているケースも多い。
※特性として示している子どもについても、状況にはグラデーションがあり、様々であること
※この他にも、学校には、病気療養で学校に通えない子ども等、多様な背景や困難を抱えている子どもが存在している

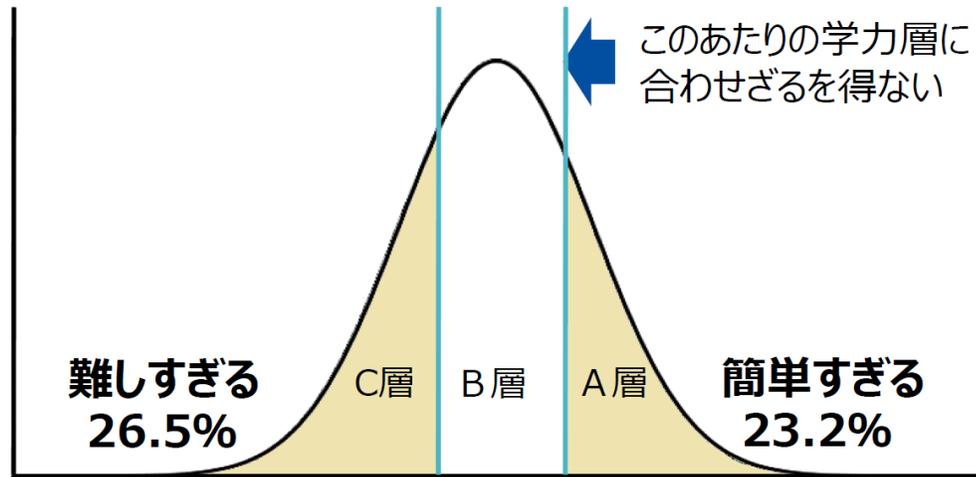
(出典) 内閣府 総合科学技術・イノベーション会議「Society5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ」を一部改変して資料作成
文部科学省初等中等教育局学校デジタル化プロジェクトチームリーダー・修学支援・教材課長 武藤 久慶 講演資料より一部改変して作成
ヤングケアラーと家族を支えるプログラムの資料を参考にして作成

「同じペースで 同じことを 同じ方法で」の教育で 「誰一人取り残さない」は可能か

下の図は、今の教室の様子です。発達格差があったり、学習の理解度に個人差があったり、抱えている悩みも子どもによって様々です。一人ひとりみんな違う多様な子どもが集う教室で、旧来型の紙や黒板を使った一方的な一斉授業をしていくことには限界があり、「それぞれのペースで 対話を通じて 自分の学びを発見」していく多様性を重視した教育・人材育成が求められています。

理解度や学力もバラバラ

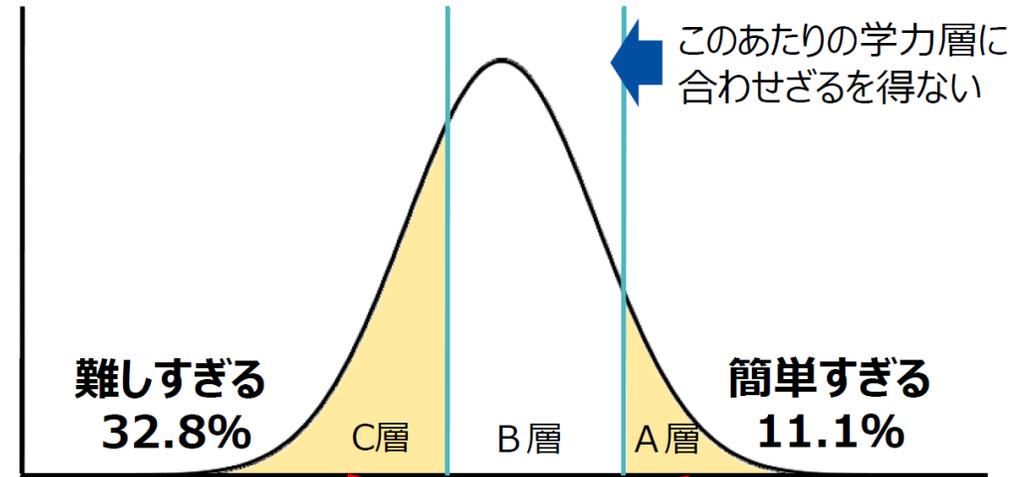
小4～6



この層が置き去りに

理解度や学力もバラバラ

中1～3



この層が置き去りに

一斉授業のスタイルでは、一定の学力層に焦点を当てざるを得ず、いわゆる「浮きこぼれ」「落ちこぼれ」双方を救っていない現状。また、困難を抱えていても一見困難に直面しているように見えず見過ごされてしまう場合がある。子どもたちが多様化する中で、教師一人による紙ベースの一斉授業スタイルは限界にきている。

保・幼・小・中の連携を強化し、小・中一貫教育を推進します。

「みんなが輝く未来へ」学校改革プロジェクト

～居心地の良い学校は、子どもたちの成長と共に創られる～

誰もが安心して過ごせる居心地の良い学校づくりを目指し、教職員のスキルアップや環境構成、小中連携など様々な取り組みを進めています。しかし、学校が居心地の良い場所になるためには、子どもたちの成長が不可欠です。子ども自身が目標を持ち、努力し、様々な学習活動を通して成長することで、学校生活は充実したものになります。そして、充実した学校生活は、子どもたちの自信や自己肯定感を高め、さらに成長を促進します。私たちは、学校と家庭、地域が連携し、子どもたちの成長をサポートすることで、居心地の良い学校づくりを実現したいと考えています。

早島町は**4**つのプロジェクトを始動します

子どもの
居場所づくり
プロジェクト

学びの冒険
プロジェクト

すべての
子どもが輝く
プロジェクト

みんなで育てる!子どもたちの健やか習慣プロジェクト

保幼小中で一貫して4つの習慣を身に付けます

保幼小中で連携し、中学校を卒業するまでに、保護者と共に、
人生の土台となる4つの習慣を身に付けていくことを目指します！！

みんなで育てる！子どもたちの健やか習慣プロジェクト

PJ
01

読書習慣

読書習慣は、子どもたちの可能性を無限に広げ、自ら考え、行動できる自立した大人へと成長するための確かな力となります。

PJ
03

食習慣

バランスの良い食習慣は、心身の健やかな成長を支え、自ら健康を管理できる大人へと育むための土台となります。

PJ
02

運動習慣

毎日の運動習慣は、子どもたちの体力向上、ストレス解消、精神力強化に繋がり、たくましく自立した大人へと成長するための力となります。

PJ
04

睡眠習慣

規則正しい睡眠習慣は、集中力、記憶力、免疫力などを高め、未来を輝かせるための確かな力となります。

「みんなが輝く未来へ」学校改革プロジェクト

～居心地の良い学校は、子どもたちの成長と共に創られる～

子どもの
居場所づくり
プロジェクト

学びの冒険
プロジェクト

すべての
子どもが輝く
プロジェクト

みんなで育てる!子どもたちの健やか習慣プロジェクト

保幼小中で一貫して4つの習慣を身に付けます

保幼小中で連携し、中学校を卒業するまでに、保護者と連携して、人生の土台となる4つの習慣を身に付け、共に作ることを協力します!

PJ
01

読書習慣

読書習慣は、子どもたちの可能性を無限に広げ、自ら考え、行動できる自立した大人へと成長するための確かな力となります。

PJ
03

食習慣

バランスの良い食習慣は、心身の健やかな成長を支え、自ら健康を管理できる大人へと育むための土台となります。

PJ
02

運動習慣

毎日の運動習慣は、子どもたちの体力向上、ストレス解消、精神力強化に繋がり、たくましく自立した大人へと成長するための力となります。

PJ
04

睡眠習慣

規則正しい睡眠習慣は、集中力、記憶力、免疫力などを高め、未来を輝かせるための確かな力となります。

すべての子どもたちにとって

安心安全な環境を目指します

近年、不登校児童生徒は増加傾向にあり、10人に1人以上の小中学生が「学校に行けない・行きたくない」という状況にあります。

このような状況を受け、誰一人取り残さない、すべての不登校の子どもたちに学びが届くような支援の新たな枠組みを構築し、個々のニーズに合わせた多様な学びの場を提供する取組を通して、子どもたちの自信や自己有用感を高めていきます。

子どもの 居場所づくり プロジェクト

施策
1

ふれあい教室(教育総合支援センター)を 不登校支援拠点として機能強化

- ふれあい教室(教育総合支援センター)を、学校に行きづらくなってしまった場合の居場所として、安心して過ごすことができる空間デザインに改修。
- 不登校支援拠点として機能強化し、一人ひとりの状況にあった支援方法を見立て、保護者支援や家庭へのアウトリーチ支援、学校復帰支援など、福祉と連携した不登校支援施策を総合的に実施。

施策
2

自立応援室の運営体制の整備

- 所属学級、ふれあい教室、家庭の三者のパイプ役、また、自立応援室が「児童生徒の居場所」「社会的自立支援の場」として機能するように、小中連携した運営体制を整備。
- 中学校に常時対応できる自立応援室専属の職員を配置し、学習支援や生活支援を行う。

施策
3

自己有用感を育む指導・支援体制の整備

- 子どもたちの力を促進し、のびのびと育っていける関わり方を身に付けること、そして周りの大人も生き生きと活動できることを目指し、教職員のスキルアップを目的とした応用行動分析学に基づく指導・支援に関する研修を実施。

「みんなが輝く未来へ」学校改革プロジェクト

～居心地の良い学校は、子どもたちの成長と共に創られる～

安心安全な環境を目指します

近年、不登校児童生徒は増加傾向にあり、10人に1人以上の小中学生が「学校に行けない・行きたくない」という状況にあります。

このような状況を受け、誰一人取り残さない、すべての不登校の子どもたちに学びが届くような支援の新たな枠組みを構築し、個々のニーズに合わせた多様な学びの場を提供する取組を通して、子どもたちの自信や自己有用感を高めていきます。

子どもの
居場所づくり
プロジェクト

学びの冒険
プロジェクト

すべての
子どもが輝く
プロジェクト

みんなで育てる!子どもたちの健やか習慣プロジェクト

保幼小中で一貫して4つの習慣を身に付けます

保幼小中で連携し、中学校を卒業するまでに、保護者と連携して、人生の土台となる4つの習慣を身に付け、共に作ることを協力します!

PJ
01

読書習慣

読書習慣は、子どもたちの可能性を無限に広げ、自ら考え、行動できる自立した大人へと成長するための確かな力となります。

PJ
03

食習慣

バランスの良い食習慣は、心身の健やかな成長を支え、自ら健康を管理できる大人へと育むための土台となります。

PJ
02

運動習慣

毎日の運動習慣は、子どもたちの体力向上、ストレス解消、精神力強化に繋がり、たくましく自立した大人へと成長するための力となります。

PJ
04

睡眠習慣

規則正しい睡眠習慣は、集中力、記憶力、免疫力などを高め、未来を輝かせるための確かな力となります。

個別最適な学びの実現を目指します

従来の一斉授業では、異なる個性を持つ子どもたちに、それぞれに合った学びを届けることには限界がありました。これからの時代は、一人ひとりの個性や能力を最大限に伸ばす教育が求められています。ICTを活用し、それぞれのペースで自分の力で学ぶ「個別最適な学び」によって、一人ひとりの興味や関心に合わせた探究テーマを設定し、協働的な学びの中で、課題解決に必要な非認知能力を育成し、未来の社会で必要不可欠な資質・能力を育みます。

学びの冒険 プロジェクト

施策 1

1人1台端末の積極的な活用の推進

- 「授業で一人一台端末を毎日活用する」という目標を立て、教職員を対象としたICT研修を実施し、基礎的な操作スキルから授業での活用方法まで、段階的にスキルアップを支援。
- 教職員や児童生徒の不安を解消するために、フィルタリングソフトを導入。
- 1人1台端末を毎日持ち帰り、家庭学習における活用を推進。

施策 2

ICTを活用した「学びの複線化」の実践

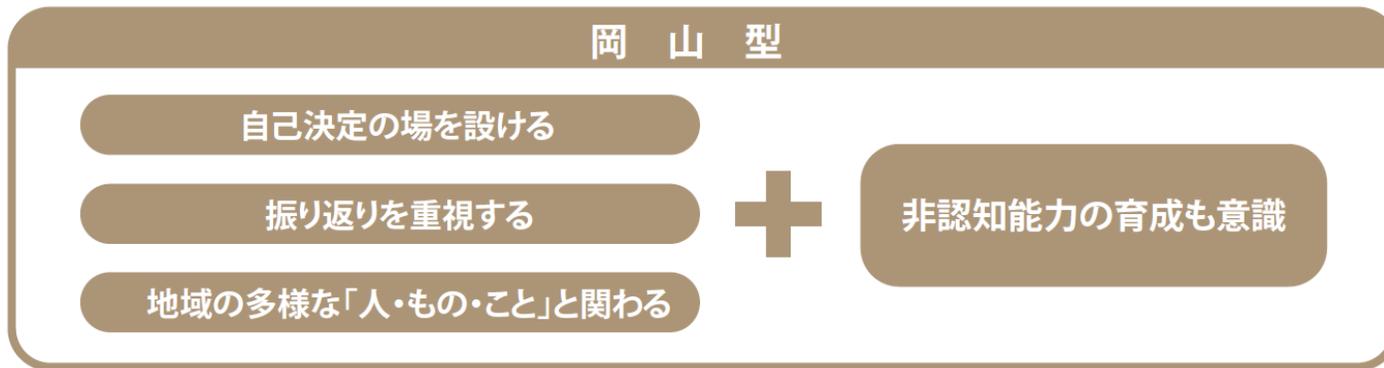
- 知識の獲得を目指し「何を学ぶか」ということから脱却し、発達段階に合わせて、「どのように学ぶか」という「学び方を学ぶ」授業への転換。
- それぞれ自分のペースで、興味や関心に合わせた学習を進められるように、ICTや紙ベースの教材など、様々な学習方法を組み合わせる「学びの複線化」の推進。

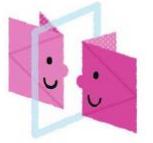
施策 3

非認知能力の育成を目指した探究的な学びの実践

- 知識を多く積み上げることよりも、子ども自身が考え、主体的に取り組む姿勢を重視する。
- 児童・生徒自身が問いを立て、主体的に探究し、解決するプロセスを重視するPBLの推進。
- 点数や数値で表せない取り組む姿勢や忍耐力、コミュニケーション力などの非認知能力育成を重視する。

非認知能力の育成を目指した探究的な学びの実践



 <small>自分を高める力</small>	<p style="text-align: center; background-color: #f0f0f0; border-radius: 10px;">自分を高める力</p> <p>これからの自分を向上させていくために必要な意欲や自信、向上心等</p>	 <small>他者とつながる力</small>	<p style="text-align: center; background-color: #f0f0f0; border-radius: 10px;">他者とつながる力</p> <p>他者と協調・協働するために必要な共感性や協調性、コミュニケーション力等</p>
 <small>自分と向き合う力</small>	<p style="text-align: center; background-color: #f0f0f0; border-radius: 10px;">自分と向き合う力</p> <p>今の自分を維持・コントロールするために必要な自制心や忍耐力、レジリエンス等</p>	 <small>地域とつながる力</small>	<p style="text-align: center; background-color: #f0f0f0; border-radius: 10px;">地域とつながる力</p> <p>よりよい地域づくりに参画するための郷土愛や貢献意識、創造性等</p>

PBL(Project Based Learning)とは

児童生徒が、自ら課題を見付け、その課題を自ら解決する過程を通して、課題解決に必要な資質・能力を身に付ける学習方法のことで、「課題解決型学習」ともいわれます。

総合的な学習の時間での例

1 事前に取り組むこと

学校教育目標・目指す子ども像を確認する

身に付けさせたい資質・能力を共有する

3 改善に向けて取り組むこと

資質・能力を育成できたか検証する

年間指導計画を改善する

2 学習過程において教師が意識すること

課題の設定

情報の収集

整理・分析

まとめ・表現

振り返り

単元

ゴールイメージを
児童生徒と共有

児童生徒による主体的な課題解決に向けた取組

課題解決の過程

教師は「伴走者」として支援

GOAL

非認知能力の育成を目指した探究的な学びの実践

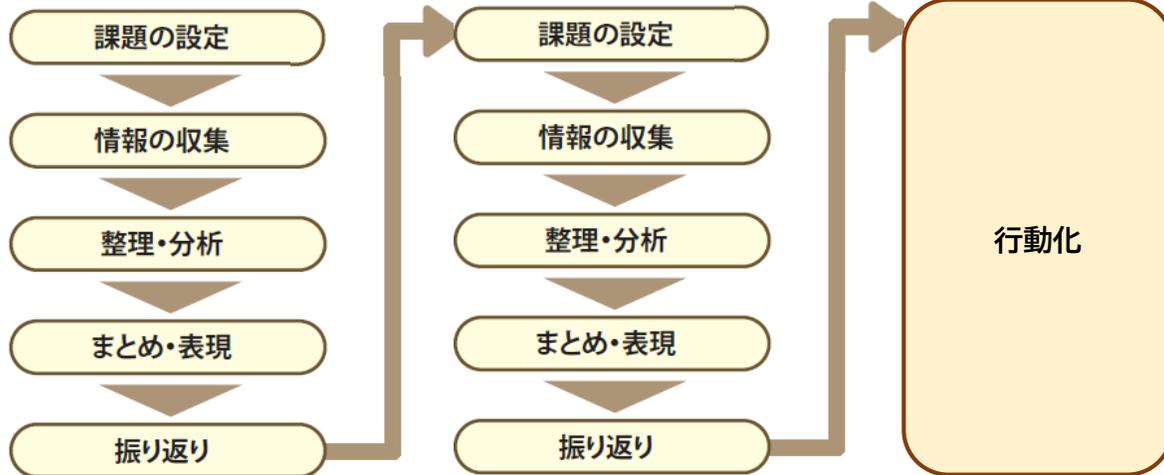


1 事前に取り組むこと

学校教育目標・目指す子ども像を確認する

身に付けさせたい資質・能力を共有する

2 学習過程において教師が意識すること



3 改善に向けて取り組むこと

資質・能力を育成できたか検証する

年間指導計画を改善する

キャリア教育

キャリア教育における「基礎的・汎用的能力」

- ① 人間関係形成・社会形成能力
- ② 自己理解・自己管理能力
- ③ 課題対応能力
- ④ キャリアプランニング能力

ESD

ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度

- ① 批判的に考える力
- ② 未来像を予測して計画を立てる力
- ③ 多面的・総合的に考える力
- ④ コミュニケーションを行う力
- ⑤ 他者と協力する態度
- ⑥ つながりを尊重する態度
- ⑦ 進んで参加する態度
- ⑧ やり抜く力

自己の生き方

社会への貢献

「みんなが輝く未来へ」学校改革プロジェクト

～居心地の良い学校は、子どもたちの成長と共に創られる～

安心安全な環境を目指します

近年、不登校児童生徒は増加傾向にあり、10人に1人以上の小中学生が「学校に行けない・行きたくない」という状況にあります。

このような状況を受け、誰一人取り残さない、すべての不登校の子どもたちに学びが届くような支援の新たな枠組みを構築し、個々のニーズに合わせた多様な学びの場を提供する取組を通して、子どもたちの自信や自己有用感を高めていきます。

個別最適な学びを実現します

従来の一斉授業では、異なる個性を持つ子どもたちに、それぞれに合った学びを届けることには限界がありました。これからの時代は、一人ひとりの個性や能力を最大限に伸ばす教育が求められています。ICTを活用し、それぞれのペースで自分の力で学ぶ「個別最適な学び」によって、一人ひとりの興味や関心に合わせた探究テーマを設定し、協働的な学びの中で、課題解決に必要な非認知能力を育成し、未来の社会で必要不可欠な資質・能力を育みます。

子どもの
居場所づくり
プロジェクト

学びの冒険
プロジェクト

すべての
子どもが輝く
プロジェクト

みんなで育てる!子どもたちの健やか習慣プロジェクト

保幼小中で一貫して4つの習慣を身に付けます

保幼小中で連携し、中学校を卒業するまでに、保護者と連携して、人生の土台となる4つの習慣を身に付け、共に作ることを協力します!

PJ
01

読書習慣

読書習慣は、子どもたちの可能性を無限に広げ、自ら考え、行動できる自立した大人へと成長するための確かな力となります。

PJ
03

食習慣

バランスの良い食習慣は、心身の健やかな成長を支え、自ら健康を管理できる大人へと育むための土台となります。

PJ
02

運動習慣

毎日の運動習慣は、子どもたちの体力向上、ストレス解消、精神力強化に繋がり、たくましく自立した大人へと成長するための力となります。

PJ
04

睡眠習慣

規則正しい睡眠習慣は、集中力、記憶力、免疫力などを高め、未来を輝かせるための確かな力となります。

すべての子どもたちが

共に学び、育ち合う教育を目指します

誰もが安心して学び、自分の可能性を最大限に伸ばせる社会を実現するために、インクルーシブ教育の推進に力を入れていきます。

インクルーシブ教育とは、障害の有無、国籍、性別、経済状況などに関わらず、すべての子どもたちが地域で共に学び、育ち合う教育です。一人ひとりの個性やニーズを尊重し、誰もが安心して参加できる教育環境を整備することで、すべての子どもの可能性を引き出していきます。

すべての
子どもが輝く
プロジェクト

施策
1

特別支援教育に関する専門性の向上

- 教育ソフトを活用したアセスメントを実施し、それに基づく個別の教育支援計画等の立案、活用及び引継ぎを行う。
- アセスメントに基づく個に応じた指導の充実、複数学年が在籍する場合のICTを活用した授業づくりを行う。
- 個々の教職員のニーズに応じた研修及び働き方改革を意識した効果的な研修を実施する。

施策
2

授業と環境のユニバーサルデザイン

- ①時間の構造化 ②視覚化 ③共有化 ④焦点化を意識した授業のユニバーサルデザイン
- ①場の構造化 ②刺激量の調整 ③ルール of 明確化 を意識した環境のユニバーサルデザイン
- 合理的配慮（個別の支援）と基礎的環境整備（全員への支援）の構築

施策
3

幼保小で架け橋プログラムの実施

- 5歳児から小学校1年生の2年間は、生涯にわたる学びや生活の基盤を作るために重要な時期であることから、子どもに関わる大人が立場の違いを超えて自分事として連携・協働し、この時期にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。

「みんなが輝く未来へ」学校改革プロジェクト

～居心地の良い学校は、子どもたちの成長と共に創られる～

安心安全な環境を目指します

近年、不登校児童生徒は増加傾向にあり、10人に1人以上の小中学生が「学校に行けない・行きたくない」という状況にあります。このような状況を受け、誰一人取り残さない、すべての不登校の子どもたちに学びが届くような支援の新たな枠組みを構築し、個々のニーズに合わせた多様な学びの場を提供する取組を通して、子どもたちの自信や自己有用感を高めていきます。

ICTを活用し、個別最適な学びを実現します

従来の一斉授業では、異なる個性を持つ子どもたちに、それぞれに合った学びを届けることには限界がありました。これからの時代は、一人ひとりの個性や能力を最大限に伸ばす教育が求められています。ICTを活用し、それぞれのペースで自分の力で学ぶ「個別最適な学び」によって、一人ひとりの興味や関心に合わせた探究テーマを設定し、協働的な学びの中で、課題解決に必要な非認知能力を育成し、未来の社会で必要不可欠な資質・能力を育みます。

共に学び、育ち合う教育を目指します

誰もが安心して学び、自分の可能性を最大限に伸ばせる社会を実現するために、インクルーシブ教育の推進に力を入れていきます。インクルーシブ教育とは、障害の有無、国籍、性別、経済状況などに関わらず、すべての子どもたちが地域で共に学び、育ち合う教育です。一人ひとりの個性やニーズを尊重し、誰もが安心して参加できる教育環境を整備することで、すべての子どもの可能性を引き出していきます。

子どもの
居場所づくり
プロジェクト

学びの冒険
プロジェクト

すべての
子どもが輝く
プロジェクト

みんなで育てる!子どもたちの健やか習慣プロジェクト

保幼小中で一貫して4つの習慣を身に付けます

保幼小中で連携し、中学校を卒業するまでに、保護者と連携して、人生の土台となる4つの習慣を身に付け、共に作ることを協力します!

PJ
01

読書習慣

読書習慣は、子どもたちの可能性を無限に広げ、自ら考え、行動できる自立した大人へと成長するための確かな力となります。

PJ
03

食習慣

バランスの良い食習慣は、心身の健やかな成長を支え、自ら健康を管理できる大人へと育むための土台となります。

PJ
02

運動習慣

毎日の運動習慣は、子どもたちの体力向上、ストレス解消、精神力強化に繋がり、たくましく自立した大人へと成長するための力となります。

PJ
04

睡眠習慣

規則正しい睡眠習慣は、集中力、記憶力、免疫力などを高め、未来を輝かせるための確かな力となります。

早島の子どもたちの輝く未来のために ～早島から世界の扉を開く～

早島町で育つ子どもたちが、「確かな学力」と「豊かな心」を身につけ、世界を学びのキャンパスとして、「広い視野」と「高い志」をもつためには、校種を超え学校・園の結びつきと、それを支える地域とのつながりが必要です。子どもと学校を中心において、全ての町民が学び合い、育ちあう環境をつくることで、子どもたちは早島で学ぶことを誇りに思い、町民も共に学び共に育つ地域を誇りに思う。このような「協働・協学・協育」の町づくりをめざします。

「地域とつながり 未来を拓く 早島っ子」の育成のために

子どもたちを
町民みんなが
育てよう!

学校・園を
町民みんなが
支えよう!

町民みんなが
共に学び合おう!

「教育のまち・早島」宣言

私は この町で あなたとともに 学び育ちます

- 私たちは、地域とのつながりを大切にし、広い視野と高い志をもち、未来に向かって羽ばたく子どもたちを育てます。
- 私たちは、生涯にわたって学び続け、自分の人生を充実させるとともに、社会に貢献します。
- 私たちは、わが早島の伝統や文化を大切にし、ふるさとを愛し、持続発展する教育のまちをめざします。